

山は呼吸している ～河川の観察～

川は道路と同じ、危険がいっぱい

R5.7.28

川の水量は、流域で雨が降ってなくても、増えたり減ったりしている。(山は呼吸している)

流域で雨が降れば、増水する。

晴天となり、その後、雨が降らなければ、数日かけて徐々(数段階ごと)に水量が減っていく。

ある程度、水量が落ち着いても、増えたり減ったりを繰り返している。

水際に置いてたサンダルや、冷やしていたスイカが、

いつの間にか流されていたなんて経験 がある方もいるだろう。



“危険”を知らないと
避けることも、対策することも
できません。

楽しいことは誰もが検索して調べます。
そうでないことは…

参考HP等

公益財団法人 河川財団
子どもの水辺サポートセンター
うんこドリル 指導者向け動画
水辺の安全ハンドブック 等々

日本ライフセービング協会
e-Lifesaving

守ろう!いのち 学び合おう!水辺の安全

国土交通省
河川水難防止ポータルサイト

海上保安庁
海の事故防止対策

NHK for School
キキとカンリ 川であそぶときのキケン

天竜川総合学習館
川遊びのルール

ダムの流入・放流のデータ 天気予報 ほか

大雨が降るなどして、土砂なども流され、

川の水が茶色く濁っているなら分かりやすい。

では、茶色く濁っていないければ、

水量が落ち着いた状態なのか?

…必ずしもそうではありません。※

普段より、水量が多いということ…それは…

普段流れていないところを水が流れているということ

↓そのため

落ち葉やゴミが頻繁に流されてくる

水中に生えない草が、水のあるところから生えている

水中に生えない苔が水中にある

樹木の枝先が水面に近い

水の流れる音が大きい、泡立っているところが多い

増水時にできる痕跡が見られない。

(枯れ枝やゴミなどの堆積、擁壁についた泥など数段階 縞状の痕跡等)

ポイント

・河原や岸、水際の植生などを観察 (樹木、草、苔など)

・川の流れを観察

(葉っぱやゴミが頻繁に流れていないか、泡立っているところが多くないか)

・耳を澄まして音を観察 (音が激しくないか)

※元々、普段から水量が多かったり、流れの激しいところもあります。

☆YouTubeなどで、どういうところで水難事故が発生するのか
なぜ発生するのか といったこと等を 検証した動画 などがアップされて
います。

☆何度も川に足を運び、「変化」を観察

…ただし、安全確保を忘れずに!

明らかに増水しているときは見に行かないこと!

・ライフジャケットを着用していても、泡立っているところでは浮力が十分でなく、沈むことが
あります。

・流水よる圧力は、想像以上です。水圧で簡単に流されます。また、取水口や岩の隙間な
どにはまると、脱出困難(ほぼ脱出不可能)です。

・縦の渦、横の渦、流速・水温の変化するところ。

・地形の変化するところ。水流による地形の変化

・浮石(岩)に乗ったところ転が(崩れ)ることがあり、転倒や下敷きになることがある。

・堆積した砂が崩れ埋もれてしまうことがある。埋もれた者を救助するのは難しい。

・水辺での活動でも、熱中症に注意。夏でも低体温症に注意

・水辺での活動は、体力を著しく消耗する。十分な余力を残す

・マムシ、スズメバチ、クラゲなど危険生物にも注意

☆他の人もいる場所だから安全…とは限らない。